2月自然観察サークルブログ

新沢千塚古墳126号墳

自然観察サークルの2月定例会は、橿原市の新沢千塚古墳群へ出かけてシルクの森と呼ばれる古墳公園の自然観察と「橿原の遺跡から見る自然環境」というテーマで講演を聞いて学びました。

歩いたコースは、近鉄橿原神宮前駅広場から橿原神宮の森を抜け深田池を通り曾我川を渡り新沢千塚古墳群のある社の森を目指す道でした。

深田池にはマガモやヒドリガモが群がって泳いでいました。水鳥を見るのは久しぶりで、とてもかわいかったです。

深田池のほとりで準備運動

行く道々観察した草花

ウメ

ハナイバナ

オランダミミナグサ

スイセン

スイバ(ロゼット状の赤い葉で防寒)

ヒメオドリコソウ

ハルノノゲシ

ナズナ

寒い日でしたが春の兆しが見えました。

古墳群に到着。115号墳と126号墳へ移動。

115号墳

墳形…方形・墳頂…西約10m、東約10m、南北約10m、高さ約1.5m
 埋葬施設…木棺直葬、長さ約3.1m、幅0.5～0.6m
 主な出土遺物…ガラス珠・玉、青銅製鏡、長身具、玉飾
 時期…5世紀後半

新沢千塚を代表する古墳の一つです。低い墳頂のやや西に、朝花
 式木棺が東西方向に納められていました。

棺内からは、朝鮮半島や中国大陸からもたらされたと推測される、
 譚羊を放つ金・鉄製の冠飾や首飾、腕輪、指輪などの装身具をはじめ、
 遠くペルシヤ地方からシルクロードを経て運ばれて来たと考えられ
 ている、透明のガラス珠や磁器製の白・パレットブルーの色彩を帯びるガ
 ブス皿などの副葬品が出土しました。また、棺の東側木目には鉄刀、
 青銅製鏡斗などがまとめて納められていました。鏡斗は玉製のアイ
 ロンにあたり、小型のフライパンのような形をしています。

出土品は重要文化財に指定されており、東京国立博物館で展示さ
 れていますが、その一部の復元品は「歴史に語る藤原市博物館」に
 展示しています。

126号墳

墳形…方形・墳頂…東西約22m、南北約16m、高さ約1.5m
 埋葬施設…木棺直葬、長さ約3.1m、幅0.5～0.6m
 主な出土遺物…ガラス珠・玉、青銅製鏡斗、長身具、玉飾
 時期…5世紀後半

新沢千塚を代表する古墳の一つです。低い墳頂のやや西に、朝花
 式木棺が東西方向に納められていました。

棺内からは、朝鮮半島や中国大陸からもたらされたと推測される、
 譚羊を放つ金・鉄製の冠飾や首飾、腕輪、指輪などの装身具をはじめ、
 遠くペルシヤ地方からシルクロードを経て運ばれて来たと考えられ
 ている、透明のガラス珠や磁器製の白・パレットブルーの色彩を帯びるガ
 ブス皿などの副葬品が出土しました。また、棺の東側木目には鉄刀、
 青銅製鏡斗などがまとめて納められていました。鏡斗は玉製のアイ
 ロンにあたり、小型のフライパンのような形をしています。

出土品は重要文化財に指定されており、東京国立博物館で展示さ
 れていますが、その一部の復元品は「歴史に語る藤原市博物館」に
 展示しています。

「歴史に憩う橿原市博物館」昼食後の自由行動時間に見学。

博物館全景

出土品展示室

縄文時代晩期の土器

126号墳出土品(金製方形版)

昼からは「橿原の遺跡から見る自然環境」という演題で橿原市教育委員会の平岩先生からお話を伺いました。およそ一万年前から数千年前なんて想像もつかない時の流れ。その流れを超えて遺跡の発掘から、当時どのような木があってどのくらいあったかなど自然環境を推測して当時の人々の生活を推測するのです。考古学もすごいです。

講演会后現地で解散しました。寒かったですが、有意義な一日でした。